岩手の風土記シリーズ（２３）　　「シワ」ものがたり

盛岡と花巻の中間にある紫波町は、オガールプロジェクトをはじめとした「公民連携によるまちづくり」で昨今注目を集めている。そしてなんといっても、フルーツの里としても有名であり、またあの銭形平次の作者である野村胡堂の出身地としても知られているところである。神田明神には銭形平次のお墓もあることはご存知であろうか。明神下の平次親分と言われたことに由来していて、子分の八五郎のお墓も隣に鎮座している。ところで紫波町、志和稲荷神社、志波城跡公園と、「しわ」の呼び名がいくつかある事はご存知であろうか？【神田明神平次の墓】

今回は「しわ」の由来の一端を紹介しよう。歴史書には「子波（しわ）」「斯波（しわ）」「志和（しわ）」等が記載されている。また北上川流域の河岸段丘のツバ（崖）の転、シボ（萎）んだ地形の転、シワ（たわまって曲がったところ）からの由来、志和稲荷神社由来、大和朝廷の勢力範囲のシハ（終末・末端）由来、志賀理和気神社（赤石神社）の神号の略、「州曲（スワ）」で河川の氾濫原曲流地由来など、様々な説があるようだ。ではそれぞれの名まえの由来について年代別に紹介しよう。まずは志波城址公園の「志波（シワ）」についてである。奈良時代から平安時代にかけ当時の日本は律令という法律を基に、全国を国・郡・里という行政単位で朝廷が土地と人々を直接支配していた。しかし東北の人々はそれに従わず「蝦夷（えみし）」と呼ばれていた。その代表が阿弖流為（アテルイ）である。

【志波城の南大門】

この蝦夷を統括する目的で、724 年に多賀城が造営され「陸奥国府」がおかれ、宮城県北部まで統治された。しかし岩手県南部以北の抵抗が強く、坂上田村麻呂が征夷大将軍に任命されて胆沢城（奥州市）が造営され阿弖流為が降伏し、さらに北進すべく 803 年に志波城が造営された。当時は城と言っても平城で城柵といわれていた。この城柵は蝦夷を統治するための行政施設であり、東北最大級と言われた多賀城にも匹敵するといわれた。またこの地域は北上川の西側に位置して。「しわ村」と言われていたようだ。推察するにしわ村に造営された城なのでしわ城と呼ばれたと思う。当時は文書での記述はなく、口述による伝達であったため、後の人が「志波城（シワジョウ）」としたためたものであろう。このことには明確な根拠は残っていないようだ。この場所は北上川と雫石川との合流地点であり、たびたび水害の被害を受けたため、のちに別な場所に移された。それが徳丹城になる。現在の矢巾町徳田であり、「新志波城」としてその後の朝廷軍の北の行政施設として、田村麻

呂の下北半島の制圧まで任を担うことになったとされる。つぎは志和稲荷神社の「志和（シワ）」である。志和稲荷神社は天喜 5 年（1057 年）源頼時が阿部氏を攻めた際、現在の紫波町陣ヶ岡に滞在中、戦勝祈願のため京都の伏見稲荷の分霊を勧請したのがはじまりらしい。従って建立して 964 年の歳月になる。この志和稲荷神社は東北屈指の古社で、平泉文化の頃は樋爪氏、中世には斯波氏、近世には南部藩主代々にわたり加護を受けてきた。大正 7 年には岩手県社にもなっている。またこの志和稲荷神社のすぐ隣に、志和古稲荷神社（しわこいなりじんじゃ）があり、古くから「古稲荷さん」と呼ばれ親しまれている。この古稲荷さんにつては、興味深い話もある。昭和 29 年 9 月、この一帯を襲った台風 15 号（青函連絡船洞爺丸沈没の時の台風）により、社前の御神木大杉が倒壊して、後日その残木整理をしていたところ、その根元の空洞から稲荷神社の眷属（けんぞく；神様の従者）である白いキツネのミイラが発見された。このような事例が見つかったのは日本でも極めて稀なことであるようだ。しかし、何故「志和」と書くのかについては明確な記述はなく、時代的に受け継がれて来た名称であるようだ。多分これも志和に造られた稲荷神社という事かもしれない。最後に紫波町の「紫波（シワ）」についてである。ここ「赤石神社」にまつわる伝承がある。近世の頃（大体 1600 年前後と推定）『高水寺城主の斯波詮直が当地を通った際、北上川の川底に赤石があって水波が紫色に漂うので「けふよりは　紫波と名づけん　この川の　石にうつ波　紫に似て」という歌を詠んだという。これに因んで郡名は「紫波郡」、社名は「赤石大明神」と称されたといい、引き揚げられた赤石は現在も境内に祀られる』というものである。実際に日詰にある志賀理和気神社（赤石神社）に行ってみると確かに「赤石様」が祀られてあった。ちなみにこの赤は酸化鉄か？、いや酸化鉄ならボロボロになってしまい残らないはず･･･などと色々と余計なことを邪推してしまう。神社本殿は手前側に新築工事がなされているが、旧本殿、赤石様は奥で見ることができるので、参拝してみてもいいかと思う。以上「シワ」について風土記風にまとめてみたが、いずれ

【志和稲荷神社本殿】

【志和古稲荷神社】

【赤石神社本殿】

【赤石様】

も明確な文献等は残っておらず、歴史ロマンの延長線という結果になってしまった。最後に紫波町のオガールプロジェクトについて述べよう、オガールは紫波町の役場や、ホテル、図書館、飲食店、産直等が一か所にまとまっていて、昨今注目を浴びているところである。我が家では、特に産直に注目していて、季節の野菜や山菜、キノコ類やフルーツ等が販売されているし、鮮魚店や肉屋などのテナントも入っていて、便利である。今の時期はブドウやリンゴが店頭を賑わしていることと思う。近くに行った際は、是非一度立寄ってみてはいかがか。

参考資料

角川日本地名大辞典３　岩手県
志和稲荷神社ホームページ
盛岡市教育委員会　志波城跡　パンフレット
紫波町ホームページ
NHK BSP にっぽん縦断 こころ旅　紫波町編